



- ①日商・全国514商工会議所のネットワークにより多くの工作機械が被災地に届けられた「遊休機械無償マッチング支援プロジェクト」。
- ②震災直後、全会員事業所を訪問・電話連絡し被災状況を確認。
- ③資金繰りや雇用など、震災に伴う企業の経営課題の解決にむけて迅速な対応を図った「緊急相談窓口」。

特集

東日本大震災からの復興に向けて ～ともに歩んだ1095日～

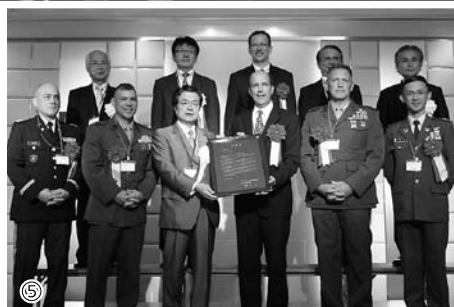
未曾有の被害をもたらした東日本大震災から3年が経過します。

商工会議所では、日本商工会議所の呼びかけのもと、全国に展開する組織力を生かし16億円以上の義援金や支援物資を被災地に提供し、物心両面にわたる支援を続けてきました。

今月号の特集では、「復旧」から「復興」に向けて、被災事業所とともに、仙台商工会議所が取り組んできた3年間(1095日)の足跡を振り返ります。



- ④平成25年4月から6月の3カ月間開催した「仙台・宮城DC」。当所では仙台・街でもてなし隊を結成し盛り上げた。写真は総決起大会の様子。
- ⑤米国の仙台空港復旧支援に対して感謝状を贈呈。
- ⑥地域が一丸となって復興に向けて進んでいくことを確認した「震災復興会員総決起大会」。



「写真で振り返る」地域と企業のために奔走した3年間の軌跡

その1 販路回復支援

被災企業を取り巻く環境は、日々刻々と変化しています。その中でも、当所では「企業の販路回復支援」を喫緊の課題と捉え、商談会等の新規事業を実施。パイヤー経験者を常駐させ、専門の部署を設置しました。

平成25年4月に第1回目の商談会をスタートさせてから、現在までに延べ243社が850商談に参加。うち、131件は当日に商談が成約。継続商談も698件と多くの事業所が新たな販路開拓に当所の商談会を活用しています。



売り手・買い手・コーディネーターの3者が活発に意見交換。パイヤーが繰り出す具体的なアドバイスを参加者が懸命にメモを取る場面も。

初めて商談会に参加。少しずつ前進しています。

菅野食品(株)(宮城野区蒲生)

取締役

菅野 叔枝さん



弊社は豆腐を作り続けて140年余りになりますが、震災によって失ったものは計り知れず、事業再開は諦めざるを得ない状況でした。しかし、社長である父の意向で事業継続を決意。その時『飛翔』に相談窓口の記事が載っていたのを思い出し、商工会議所を訪ねました。事業再建の相談にのっていただけるコーディネーターさんと、顔見知りになるほど通い、初めて商談会にも参加。その結果、寺岡にあるフードマーケットフジサキさんに商品を置かせていただくことができました。今後も商談会などに参加しながら、身の丈にあったやり方で販路を広げていければと思っています。

商談会当日の流れ

1



パーティションで区切られた商談ブース。仕切りがあるので安心。商談にも集中できます。

遅刻や当日のキャンセルは厳禁です！

2



テーブルの上には七つ道具。試食用のお皿やお箸、試飲用のカップが並びます。

パイヤーさんも1品1品を真剣に吟味。試食の度に備え付けのお水で味をリセット。

3



いよいよ商談開始。時間は25分。当所のコーディネーターも同席しパイヤーからの指摘を記録します。

4



商談後はコーディネーターと改善ポイントの確認。今後のスケジュールなどを個別に打ち合わせします。

5

見事成約に至った企業の皆さん、おめでとうございます！残念ながら今回は成約に至らなかった皆さんも、当所のコーディネーターがしっかりとサポートします。パイヤーさんからいただいた指摘箇所を改善し、今後の商談成立につなげましょう！バックアップ体制は万全です！まずは一歩踏み出してみるのが重要です。

着々と成果を上げている「商談会」。販路開拓をお考えなら、ぜひお気軽にご参加ください。

その2 遊休機械無償マッチング支援

日本商工会議所と全国514商工会議所のネットワークを活用し、津波などで生産機械等が流失・損壊した事業者者に遊休工作機械の提供を行ってきました。平成23年8月の事業開始以降、これまで岩手・福島・宮城の被災事業所で2,334件のマッチングが成立しています。

機械受領事業所の感謝の声



昨年10月に仮設店舗を開店しました。陳列棚や、冷蔵庫などをご提供いただいただけでなく、電源なども丁寧に調べていただきました。(酒店)



支援いただいたフォークリフトは程度もよく、順調に稼働しています。同業者と融通しあいながら使わせていただいています。(建築業)



支援いただいた施盤で、船舶の部品や補修を行っています。(鉄工所)

フライス盤を支援いただきました。多少傷んでいたところは、自分で修理し大切に使っています。(造船修理業)

今後の動き 〜新たなニーズに 대응〜

震災から3年が経過し、復旧・復興のスピードやニーズは地域によって大きく異なってきました。

刻一刻と変化する被災事業所のニーズに機敏に対応できるよう、当所工業部会(部会長：榎橋本店佐々木宏明氏)では「震災復興交流委員会」を設置。

引き続き514会議所のネットワークを活用して全国に支援要請を行うとともに、今後は被災地商工会議所の工業部会等との連携も強化し、現場の声を反映した「生きた支援」を展開していきます。

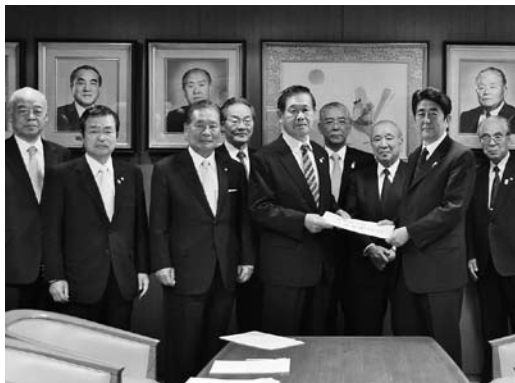
本特集をご覧になって「機械を提供したい」または「機械の提供を受けた」というお声がありましたら復興支援チーム265-8129までご連絡ください。

現在、ニーズが多いのはこの機械です。

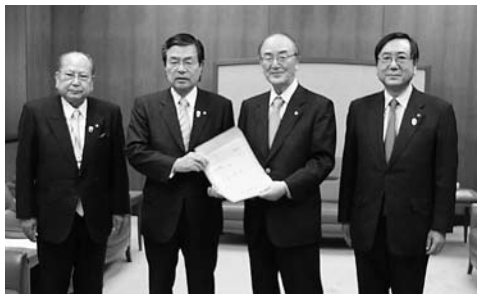
機械	産機	工具	その他
汎用旋盤	エンジンフォークリフト	卓上ボール盤	業務用冷凍冷蔵庫
縦・横型汎用フライス盤	ハンドリフト	卓上グラインダー(両頭)	作業工具
バンドソー	コンプレッサー	ディスクサンダー	切削工具全般
コンターマシン	エンジン発電機	電気ドリル	ノギス(デジタル可能)
直立ボール盤	エンジン溶接機	充電式ドリルドライバー	電気丸ノコ
ラジアルボール盤	交流アーク溶接機	高速切断機	電気丸ノコ
キーシッター	冷房機器	電気ドリル	ノギス(デジタル可能)
シャーリング	暖房機器	電気ドリル	ノギス(デジタル可能)
エンジンフォークリフト	卓上ボール盤	充電式ドリルドライバー	電気丸ノコ
ハンドリフト	卓上グラインダー(両頭)	高速切断機	電気丸ノコ
コンプレッサー	ディスクサンダー	電気ドリル	電気丸ノコ
エンジン発電機	電気ドリル	充電式ドリルドライバー	電気丸ノコ
エンジン溶接機	充電式ドリルドライバー	高速切断機	電気丸ノコ
交流アーク溶接機	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
冷房機器	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
暖房機器	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
卓上ボール盤	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
卓上グラインダー(両頭)	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
ディスクサンダー	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
電気ドリル	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
充電式ドリルドライバー	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
高速切断機	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
ノギス(デジタル可能)	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
作業工具	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
切削工具全般	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
業務用冷凍冷蔵庫	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ
什器全般	電気丸ノコ	電気丸ノコ	電気丸ノコ

その3 要望活動

随時変化する復興ニーズを政府や自治体に届けながら、地域経済の再建に向けた取り組みを実施。商工会議所は被災事業所の代弁者として日々活動してきました。



新政権へ要望書を提出。震災復興と福島再生のスピードアップを強く求めた(平成24年12月19日)。



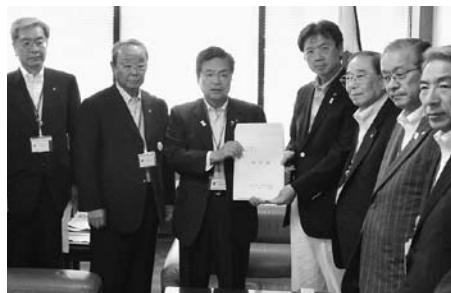
日本商工会議所三村会頭に、東北六県商工会議所より復興支援策に対する要望を実施。要望の内容は福島再生支援など約20項目にわたり、当所の議員懇談会でご発言いただいた意見などを中心に構成。日商は本要望を反映した新たな要望書を取りまとめ3月3日に根本復興大臣へ手渡した(平成26年2月6日)。



ソウル市内で日本大使館公使と面会。韓国政府による東北で捕れた水産物の全面輸入禁止措置の早期規制撤廃を求めた(平成25年11月13日)。



宮城県商工会議所連合会にて、震災復興に関する要望書「東日本大震災を乗り越えた東北経済の再生にむけて」を作成。村井知事への要望を実施した(平成25年7月16日)。



東北六県商工会議所連合会にて要望を実施。被災地域や中小企業の早期再建を図る継続的な財源確保、福島原発事故の早期収束などの実現を求めた。写真は当時の復興副大臣秋葉賢也氏(右から4人目)へ要望書を渡す様子(平成25年7月18日)。

その4 風評被害払拭・交流人口拡大支援

被災地域の復興には交流人口の拡大が欠かせない要素。商工会議所では、祭りの開催や各種イベントを通じて風評被害の払拭や、観光客誘致などを積極的に支援してきました。



「東北六魂祭」のベースともなった「東北夏まつりネットワーク」を四季のまつりに拡大し、「東北まつりネットワーク」を新たに結成(24年3月15日)。



東北の魅力を伝え視察旅行を呼びかけるためのPR媒体「今こそ、東北へ!」を発行。東北六県が一致団結し、震災から立ち上がる姿を全国に発信した。



日韓商工会議所首脳会議での来仙をきっかけに、韓国・光州商工会議所と当所初の友好協定を締結。今後の経済交友促進に向けて固い握手を交わす鎌田会頭と光州・朴会長(平成25年6月11日)。



日韓両国商工会議所間の経済交流促進と、友好親善を目的とした「日韓商工会議所首脳会議」を仙台で開催。震災による風評被害の払拭・風化防止、韓国からのインバウンド回復を目的に鎌田会頭が仙台開催を誘致(25年6月10・11日)。



博多どたく港まつりに参加し、復興に前進する仙台をPR。8月の七夕への来場を求めた。写真は前夜祭ステージにて支援に対する御礼を述べる鎌田会頭(平成24年5月2~4日)。

その5 その他の取組み

全国514商工会議所のネットワークを通じて、被災地の現状や、刻々と変化する復興ニーズを全国に発信。更には被災者の心のケアや福島再生事業も引き続き実施します！

女性会・青年部を通じて全国へ情報発信！



全国商工会議所女性会連合会宮城全国大会を開催。全国からいらした3,500人の参加者に「元気な宮城・仙台」を力強く発信した(平成25年9月5・6日)。写真は大会式典で主催者あいさつを述べる平賀仙台南女性会会長。

日本商工会議所青年部平成25年度会長に、阿部賀寿男氏(㈱阿部蒲鉾店社長)が就任。8月23、24日には岩手県北上市で「震災復興フォーラム」を開催するなど、東北から全国へ被災地の現状を発信している(任期は本年3月31日まで)。



全国大会会場内で物産展「チャリティー・絆モーション」を実施。売上の一部は被災3県の子供たちへ自治体を通じて寄付された。



東北の復興は福島の再生から



原町・相馬復興応援ツアーを開催し、福島県浜通り地域の現状を視察。今後の継続した支援を確認した(平成25年10月8・9日)。

被災地の心の復興も大切に



仙台市内の小中学生が作成した約8万羽の折鶴からなる七夕飾り。震災でつらい経験を乗り越えた子供たちの心のケアにもつながる取り組みとして好評だった。

風評被害払拭にむけて



東北の夏祭りが集結し「東北六魂祭」を実施。東北が一つになって、復興に前進していくというメッセージを全国に発信した(写真は昨年6月1・2日に福島で行った開祭りの様子)。



目の前にせまるねぶたの迫力に観客から歓声があがる。写真は平成24年5月26・27日に盛岡開催の様子。

震災から3年。

被災地の復興も徐々にはありますが目に見える形で進みはじめています。その一方で、地域により抱える課題が異なる、進捗状況にも格差が生まれていることも事実です。

新たな課題が見つかることで、新たなニーズやシーズ、支援策が生まれます。

仙台商工会議所では、これらをくみ取りながら、震災で失った販路の回復や風評被害払拭・風化防止という課題の解決に向けて、これからも事業を展開します。

そして、東北のゲートウェイとして、東北全体が一日も早く本来の姿を取り戻すため仙台・宮城はもちろん、東北六県を視野にいたれた支援活動に全力で取り組みます。東北の被災地が復興しなければ、仙台経済の真の回復はありません。会員の皆さまのために、そして地域のため、東北のために仙台商工会議所は走り続けます。